

「笠間の小ギク」省力・安定生産技術の確立と経営向上

県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター

笠間市は古くから花き生産が行われ、JA 常陸笠間地区花き部会の「小ギク」は茨城県花き銘柄産地に指定された県内有数の産地です。40歳代の経営改善意欲のある主要な経営体が複数名確保されているものの、高齢化等により部会の出荷量・販売額が減少傾向で、その対策が急務となっています。

そこで、省力技術等の導入による既存経営体の生産維持・拡大と新規生産者募集活動の再開により、小ギク出荷量・販売額の維持・拡大を目指しています。

産地を牽引する小ギク経営体の育成

経営改善意欲のある小ギク経営体へ省力化技術である小ギク用定植機を導入するため、実演会や作業効率調査の実施、マニュアル化などを実施しました。

その結果、笠間市が独自の補助事業を創設したこともあり、令和5年度までに5経営体が定植機を導入しました。導入によって定植時間が短縮され、作業の軽労化に繋がりました。



図1 導入した定植機の活用



図2 新規生産者向け定植講習会

新規小ギク経営体の確保・育成

令和4年度に新規生産者募集活動を再開し、1経営体が栽培を開始しています。今年度は当対象に対し、既存生産者を交えた個別巡回等の支援を行い、計画通り出荷することができました。

令和5年度の募集活動では、チラシによる募集の外、説明会や見学会などの様々な活動の結果、新たに4経営体が栽培を開始しました。

小ギク出荷量の維持・拡大

病虫害講習会の実施に加え、害虫発生状況調査を行い結果を毎週情報提供し、防除指導を行いました。また、高温による開花遅延が顕著なため、品種構成の見直しを出荷反省会で提案するなど、出荷量の向上を支援しました。

様々な取組の結果、今年度銘柄産地の再指定を受けるとともに、販売額1億円を維持することができました。



図3 銘柄産地指定証交付式